



デジタルデンティストリー、できる事できない事

近畿・北陸支部
増田 長次郎

昨今のデジタル技術の進歩は目覚ましい。人体内部や直視できないところが可視化できた、また動作確認できるなど歯科医療の現場での役割は日増しに増幅していくという感は否めない。インプラント、補綴装置、歯科矯正、各種シミュレーションが簡単に行え、デジタルデータを組み合わせることでグローバルな臨床が実現される。歯科技工の分野においては、CAD/CAMや3Dプリンターを使用することでかなりの効率化が計られる。また、材料の多様性や精度の向上など恩恵は甚大であると考えられる。

しかしながら、高度な適合精度や、歯周的なメンテナンスのためのサブジンジバルカントゥアー(上部構造によるティッシュサポート)、審美性、緻密な咬合など偉大な先人たちが大切にしてきたことが置き去りになるケースも多数発生しているのも事実であろう。アナログで培ってきた知識や情報と、効率化を主目的としたデジタル技術は共存しなければならない。

また、機械を導入しても非効率な場面も多くみられる。術者が何の目的でどこまで使用したいのかをもって、機種を選択をして日常臨床の一助となることを切に願う。

今回は基本的な事柄を中心に、どこまでデジタルに依存出来て、逆に依存してはいけない限界を、筆者が考える現時点において補綴装置を中心にまとめてみたいと思う。

【略 歴】

- 1982年 大阪歯科学院専門学校卒業
- 1986年 大阪セラミックトレーニングセンター卒業
ナショナルセラミック デンタルラボラトリー入社(ロサンゼルス)
- 1989年 STUDIO PROF. BRACCHETTI 勤務(ミラノ)
- 1994年 KALOS DENTAL ITALIA S.R.L.開業(ミラノ)
(有)カロス デンタル ジャパン開業(姫路 現 (株)カロス)
KIP(カロスインプラント補綴)トレーニングセンター開設
- 2007年 KPC(カタナプロダクションセンター)開業

【書 籍】

今日から実践 包括的審美歯科技工 (医歯薬出版株式会社 2016年10月発刊)